

(別紙)

6 主な事業に関する調べ

事業名		デジタル化時代の知の拠点づくり事業			
施策の実施状況、成果・進捗状況・問題点等					
(単位：千円)					
当初予算額	補正等予算額	予算現額	支出済額	翌年度繰越額	不用額
25,433	(流用) ▲210	25,223	24,862	0	361

1 主な事業の実施状況

<令和6年度事業に関すること>

○「鳥取県電子図書館普及キャラバン」の実施(令和6年10月～12月)

・電子書籍サービス及びデジタルアーカイブシステム「とっとりデジタルコレクション」(以下「とりデジ」という。)を全県的に普及・利用促進するため、出前図書館・イベントを県内4か所で開催

実施日	10月13日	11月3日	12月6日	12月7日
会 場	鳥取大学 附属図書館	鳥取大学 医学図書館	境港市役所	イオンモール 日吉津
対 象	学生、教職員	学生、教職員	市職員、市議会議員	一般県民
来場者数	350名	150名	45名	302名

○資料デジタル化研修の実施(令和6年11月19日・20日、参加者20名)

・写真・絵葉書・地図等の一枚物を対象とした資料撮影実習及び画像加工実習

<電子書籍サービスに関すること>

○電子書籍サービスの運用

・利用できる電子書籍：KinoDen(紀伊國屋書店)

・利用可能冊数：専門書、学術書、英語多読用資料等 2,943冊

・アクセス件数：20,861件(1日あたり57.2件)

・県立図書館のカード保有者だけでなく、市町村立図書館や学校図書館のカード保有者も利用可能

○電子書籍サービスの広報

・サイトリニューアル(令和6年6月～、<https://www.library.pref.tottori.jp/search/post-19.html>)

・伯耆町有線テレビジョン制作番組「勝手に探Q新」への出演

・特別資料展「平安時代の物語文学ー読み継がれた源氏物語と池田亀鑑ー」で、平安文学に関する電子書籍リストを作成

・県知事部局との連携(子育て王国アプリへの情報登録、エコトリピーによる情報発信等)

・県教育委員会との連携(読書トリピーによる情報発信、とっとり教育ポータルサイトへの掲載等)

<「とりデジ」に関すること>

○「とりデジ」の運用

・図書館、博物館、公文書館、埋蔵文化財センターの4館合同システム

・公開データ件数：約69万件(うち図書館：約21万5千件)

- ・総アクセス件数：約 147 万件（うち図書館：約 18 万 6 千件）

○資料デジタル化の推進

- ・郷土資料のデジタル化(第2次五か年計画の2年目)
令和6年度デジタル化資料(和本、地図、案内誌等 100点)

○「とりデジ」の広報・研修

- ・アクセス件数 100 万件到達（令和6年5月5日）
- ・「鳥取県電子図書館普及キャラバン in イオンモール日吉津」にて「とりデジ」クイズを実施（令和6年12月7日）
- ・郷土文学者情報発信事業『やつれみのの日記』の翻刻作成・公開及び崩し字で書かれた作品を解読するワークショップ」（令和7年3月14日、参加者11名）
- ・郷土人物をテーマとした企画展示開催時に「とりデジ」内の郷土人物情報へのリンクを貼付

2 事業の成果（改善状況）・課題等

○令和6年度の事業実施に当たり改善等に取り組んだ点

- ・電子書籍サービスと「とりデジ」を普及するため「鳥取県電子図書館普及キャラバン」を実施した。
実施にあたっては、遠隔地居住者も市町村立図書館等を経由して県立図書館のサービスが受けられることを周知するため、市町村立図書館・大学図書館職員と協働して運営を行った。

- ・昨年度に引き続き、鳥取県ライトハウス点字図書館と連携し、電子書籍サービスに関するホームページのアクセシビリティ改善に向け検討を行った。当館にどのような電子書籍があるか、スクリーンリーダーを経由しても確実に情報が得られるよう、テキストデータによる資料リストを新たに作成・公開した。

- ・電子書籍の広報にあたっては、県庁各課にも情報提供を行い、より広い層に向けて情報発信を行っている。

- ・デジタル化を担う人材育成のため、県・市町村の図書館、文化財担当者対象の研修を実施した。

○成果及び効果

- ・「鳥取県電子図書館普及キャラバン」の実施により、非来館者層を含む多くの方に電子書籍サービス及び「とりデジ」を広報することができた。また事業に協力いただいた市町村立図書館・大学図書館の来館者数やweb利用者登録件数が増加するなど、相乗効果が得られた。

- ・令和6年5月に「とりデジ」へのアクセス件数が100 万件に到達した。令和7年3月までのアクセス件数は約147 万件（うち図書館資料へのアクセス累計は約18万6千件）となり、年々アクセス数が伸びている。

- ・昨年度に引き続き、郷土資料のデジタル化を進めている。

- ・資料デジタル化研修は業務委託形式で行ったが、受託企業としても「撮影実習に特化した全県集合型研修」の実施例はこれまでになく、今回の研修内容は全国モデルとなり得るものとなった。

- ・資料デジタル化研修や崩し字講座等の開催により、県内の図書館員や関係者がデジタル化に必要な基礎知識の習得に向かっており、資料デジタル化の必要性や重要性を認識いただいている。

○課題

- ・電子書籍サービスと「とりデジ」の認知度をさらに高めるため、新規利用者の開拓が見込まれる大

学や商業施設での実施、県主催事業への参加等、図書館の枠組みにとらわれない広報手段を検討する必要がある。

- ・電子書籍サービスがあらゆる利用者に対応しより使いやすいものとなるよう、音声読み上げ対応のコンテンツを充実させるとともに、県民の意見を伺いながら引き続きアクセス改善及び紀伊國屋書店への要望を行う必要がある。

- ・デジタルパスファインダー等の教材開発をさらに進め、県民の教育文化・観光・研究等への利活用を推進する必要がある。

- ・令和8年3月の「とりデジ」システム更新に向け、参加館と協議の上、調達業務を滞りなく進める必要がある。

- ・市町村立図書館や大学図書館等、関連機関との連携を進めコンテンツの充実を図りつつ、システム更新後の「とりデジ」に現参加館以外の機関が新たに参加可能とするための体制を構築する必要がある。

- ・資料のデジタル化を推進し、貴重な財産を後世へ確かに継承する体制を全県的に整えるため、資料の適切な保存管理及び利活用等の実務を担う人材育成を行う必要がある。加えて、関連機関に対しては、自館におけるデジタル化実務の進捗状況などを確認するためのヒアリングを行う必要がある。

(別紙)

6 主な事業に関する調べ

事業名		仕事とくらしに役立つ図書館推進事業（くらしに役立つ図書館推進事業）			
施策の実施状況、成果・進捗状況・問題点等					
(単位：千円)					
当初予算額	補正等予算額	予算現額	支出済額	翌年度繰越額	不用額
7,806	(流用) ▲851	6,955	6,148	0	807
1 主な事業の実施状況					
＜読書バリアフリー推進・普及のための図書館サービス事業＞					
○鳥取県読書バリアフリー推進に係る関係者協議会の開催					
「鳥取県視覚障がい者等の読書環境の整備の推進に関する計画」に基づく鳥取県の読書バリアフリー推進事業等の取組状況等について、事業等の評価や進行に関する有識者等の意見を聴取することを目的として、年3回開催。					
○はーとふる図書館ツアー（視覚障がい者等を対象とする図書館ツアー）の開催・・・19名参加					
○アクセシブルな書籍等所蔵数					
令和6年度18,563点 令和5年度17,995点 ※354点増（令和7年3月末現在）					
○アクセシブルな書籍等貸出数					
令和6年度18,090点 令和5年度16,858点 ※1,232点増（令和7年3月末現在）					
○障がい者サービス用機器の整備・充実					
デジ図書再生機1台、据置型拡大読書器1台、リーディングループ16個、リーディングトラッカー27個					
＜医療・健康情報の提供＞					
○館内標示を考えるワークショップ（認知症本人ミーティング）の開催					
令和5年度の「認知症本人ミーティング」でいただいた提案を基に、わかりやすい館内標示作成のためのワークショップを実施。その後、障がい者関係団体等への意見聴取も実施し、多様な来館者にとってわかりやすい館内標示を設置。					
＜高齢者サービス情報の提供＞					
○「デジタル機器を利用した情報収集講座」の開催					
市町村立図書館との共催により、スマートフォン、タブレットを利用した情報収集方法について学ぶ講座を開催					
10月23日・倉吉市立図書館・参加者9名					
11月22日・米子市立図書館・参加者10名					
12月19日・鳥取市立中央図書館・参加者5名					
2月23日・灘手コミュニティセンター・参加者14名					
＜「サポートの必要な家庭」応援事業＞					
○とっとり孤独・孤立対策官民連携プラットフォームへの参加					
県立図書館と県内市町村立図書館から成る鳥取県公共図書館協議会として、令和6年9月から参加。					

<法情報・困りごと解決支援情報の提供>

- 関連機関との共同による相談会、労働セミナーの開催(会場：県立図書館)
- 日常生活の困りごとに役立てていただける「困りごとナビ」15種類改訂

<図書館で「すくすく子育て」応援事業>

- 託児サービス「託児で来(らい)ぶらり」
幼い子ども連れで来館する利用者向けの託児サービスを実施
毎週水曜午前9時15分～11時45分・利用者延べ30名

<豊かな心をはぐくむ子どもの読書応援事業>

- 児童サービス専門講座の開催
県外講師を招聘し、児童書や児童サービスについての理解を深める講座を実施(年1回)。
9月19日・「未就学児と本をつなぐ―豊かな未来のために」・参加者47名
- 児童サービス実務研修の開催
児童サービスの基礎について実践的に学ぶ研修を市町村立図書館との共催で実施(年3回)
6月27日・ブックトーク(入門編)・参加者21名
11月7日・ブックトーク(実践編)・参加者11名
2月6日・選書(選書の基本、児童新刊見本資料を用いた意見交換等)・参加者21名

2 事業の成果(改善状況)・課題等

○成果(改善状況)

項目	内容
読書バリアフリー推進・普及のための図書館サービス事業	・鳥取県読書バリアフリー計画については、現時点評価(計画中間年となる令和5年度までの評価)を実施し、取組の進捗状況と今後へ向けた課題等を把握することができた。 ・特別支援学校以外の学校へLD等専門員連絡会で当館サービスについて説明を実施する等、学校現場への広報に努めた。 ・はーとふるサービスや読書バリアフリーについて周知するため、県政テレビやラジオ、新聞等を通じて一般県民へ向けた周知啓発を実施した。 ・「子どものための福祉機器展」等関係団体行事への出前図書館実施や個別訪問を実施し連携に努めた。
医療・健康情報の提供	・新たな館内表示を設置したことにより、多様な来館者にとって利用しやすい図書館となるための環境整備に取り組むことができた。
高齢者サービス情報の提供	・「高齢者対象のデジタル機器を利用した情報収集講座」を、学びなおしに取り組む方まで対象とし、当館以外の

	図書館で開催したことにより、日頃当館に足を運ぶ機会がない県民の方にもサービスを提供することができた。
「サポートの必要な家庭」応援事業	・とっとり孤独・孤立対策官民連携プラットフォームへの参加や連携展示などを通じて、関係機関との連携を進めることができた。
法情報・困りごと解決支援情報の提供	・日常生活の困りごとに役立てていただける「困りごとナビ」を15種類改訂し、最新情報を提供できた。
図書館で「すくすく子育て」応援事業	・託児サービス「託児で来(らい)ぶらり」を実施し、幼いお子さん連れの利用者の方にゆっくりと調べ物をしたり本を選んだりしていただくことができた。 ・「子育て応援コーナー」を設置し、子育てに必要な情報を1か所で提供することができた。
豊かな心をはぐくむ子どもの読書応援事業	・「児童サービス専門講座」では、対象を幼稚園・認定こども園・保育所に広げて開催した。 ・「児童サービス実務研修」では、特に初めて児童サービスを担当する職員を対象とした。 ・上記により、児童サービスへの理解が深まり、各種おはなし会や児童図書室での展示等、子どもの読書活動推進のための取組みに活かすことができた。

○課題

項目	内容
読書バリアフリー推進・普及のための図書館サービス事業	・鳥取県読書バリアフリー計画は、令和7年度に計画の最終年を迎えるに当たり、当事者、関係団体等と意見交換しながら改訂作業を進めていく必要がある。 ・県内の障がい者サービスの実態調査の実施等を通じて、障がい者サービスの一層の周知及び市町村立図書館との連携を強化し、県内全域の障がい者サービスの更なる充実を図る必要がある。 ・図書館の読書バリアフリーの取組や障がいに配慮した様々な資料や機器について、引き続き周知啓発に努める必要がある。 ・個々のニーズを把握しサービスにつなげるため、関係団体との連携をより密にしていく必要がある。
・医療・健康情報の提供 ・高齢者サービス情報の提供 ・「サポートの必要な家庭」応援事業 ・法情報・困りごと解決支援情報の提供	・県内の各サービスの実態を把握し、サービスの一層の周知、及び市町村立図書館・関係機関等との連携によるサービスの充実を図る必要がある。
・図書館で「すくすく子育て」応援事業	・当館の子どもと本をつなぐ取組や、子育て応援サービスについて、改めて周知を図り利用を促す必要がある。

・豊かな心をはぐくむ子どもの読書
応援事業

・社会情勢の変化等を踏まえながら、市町村立図書館や学校をはじめとする関係機関や団体等と連携を図り、子どもの読書活動を推進するための取組みを進める必要がある。

(別紙)

6 主な事業に関する調べ

事業名	仕事とくらしに役立つ図書館推進事業（図書館ビジネス支援推進事業）				
施策の実施状況、成果・進捗状況・問題点等					
再掲（単位：千円）					
当初予算額	補正等予算額	予算現額	支出済額	翌年度繰越額	不用額
7,806	（流用）▲851	6,955	6,148	0	807
1 主な事業の実施状況					
○図書館で夢を実現しました大賞の募集（7月12日～10月30日まで）					
○図書館で夢を実現しました大賞・表彰式の開催（3月1日）					
○ビジネス支援サービス20周年記念Bizフォーラムの開催（3月1日）					
○「夢・実現スタートアップ創業勉強会」の開催（10月22日、24日、29日）					
※INPIT知財総合支援窓口から商標についての紹介。相談会にも同席した。					
○「としょかんビジネストーク」ホームページへの追加掲載					
掲載開始日	令和7年3月1日公開				
URL	http://www.library.pref.tottori.jp/business/cat6/new.html				
掲載企業(2件)	るりゅーる、ゲストハウスくるくる				
※図書館で開催する各種相談会・セミナー・資料相談等で得た情報を、起業・経営等に役立てて活躍されている事業者インタビューを行い、記事をホームページに掲載した。					
○商工労働関連研修会、イベントへの出前図書館等の実施(6回)(4～3月)					
○各種相談会の実施					
(1) 知財・ビジネス合同相談会の定期開催（会場：県立図書館）(4～3月)					
・県立図書館司書と「INPIT 知財総合支援窓口コーディネーター」と「弁理士」、「鳥取県よろず支援拠点」の相談員による相談会。相談者が求める知財・ビジネス情報の検索は司書が行い、知財に関する相談は「INPIT 知財総合支援窓口コーディネーター」と「弁理士」が行う経営相談は鳥取県よろず支援拠点の相談員が行う。					
(2) 起業・経営なんでも相談会の定期開催(会場：県立図書館) (4～3月)					
・県立図書館員は相談内容に応じて資料を事前準備する。相談は鳥取県中小企業診断士協会の中小企業診断士が行う。					
(3) 創業融資相談会の定期開催（会場：県立図書館）(4～3月)					
・県立図書館員は相談内容に応じて資料を事前準備する。相談は日本政策金融公庫の職員が行う。					
(4) 就農相談会の定期開催（会場：県立図書館）(4～3月)					
・県立図書館員は相談内容に応じて資料を事前準備する。相談は鳥取県農業経営・就農支援センター職員が行う。					
○県立図書館と産業支援機関との連携事業					
・高校生ビジネスプラン作成講座」の開催(日本政策金融公庫との共催)（8月8日、8月9日）					
・「貿易実務講座」の開催(ジェトロ鳥取との共催)（11月6日、11月7日）					
○企画展示「鳥取県認定グリーン商品リレー展示2024」の開催					

内 容	鳥取県認定グリーン商品リレー展示2024	
展 示 物	鳥取県認定グリーン商品の実物展示、紹介パネルの展示など	
主 催	鳥取県認定グリーン商品普及促進協議会	
展 示 館	10館（県立1館、高等学校9館）	
期 間	9月5日(木)～2月26日(水)	
展 示 館		展 示 期 間
(県立図書館)		
鳥取県立図書館		令和7年1月4日(土)～1月19日(日)
(学校図書館)		
倉吉農業高等学校		9月5日(木)～9月19日(木)
米子西高校		9月12日(木)～9月26日(木)
米子白鳳高校		10月23日(木)～11月20日(木)
鳥取工業高校		10月18日(金)～11月15日(金)
鳥取中央育英高等学校		10月31日(木)～11月14日(木)
鳥取湖陵高校		11月27日(水)～12月11日(水)
湯梨浜学園高校		11月27日(水)～12月11日(水)
倉吉西高等学校		令和7年1月15日(水)～1月29日(水)
倉吉北高等学校		令和7年1月29日(水)～2月26日(水)

※循環資源を活用した製品の展示物とともにグリーンイノベーション・SDGs・カーボンニュートラルなどとリンクさせ、関連図書等を図書館で展示した。

2 事業の成果（改善状況）・課題等

○成果・進捗状況

事業名	成果
第6回図書館で夢を実現しました大賞	具体的な成功事例を3件集めることができ、図書館を活用した事例を漫画で紹介するチラシを3枚作製しHP等で周知できた。
ビジネス支援サービス20周年記念Bizフォーラムの開催	ビジネス支援サービス開始から20年が経過し、各メディアでも取材があり、周知を図ることができた。
夢・実現スタートアップ創業勉強会	鳥取県よろず支援拠点及び米子市立図書館・倉吉市立図書館と連携して開催し、参加者へ創業のノウハウを学んでいただくことができた。また関係機関との連携が強化できた。各図書館からも情報提供を行い、図書館が情報収集に役立つ場であることを効果的にPRできた。
県内の産業支援イベントでの出前図書館の実施	県内6か所で出前図書館を行った。貸出だけでなく、図書館の活用法についてもプレゼンを行い、新規登録者も多数獲得した。
高校生のためのビジネスプラン作成講座	3年連続で米子市立図書館会場を加えた2会場で開催し、西部地区の高校生にもビジネスアイデアの発想法や図書館の活用法について学べる機会を作ることができた。

○各種相談会について

ビジネス関連の件数は令和5年度より10件ほど減少したが、特許相談会とビジネス相談会が合同相談会となったためである。継続的に相談会や各種行事を行うことで、着実に創業や経営に必要な情報を提供でき、図書館のアドバイスを活用してビジネスを立ち上げた事例が生まれ、地域企業の創業や経営を後押しできた。

	起業経営なんでも/ 創業融資相談会	ビジネス 情報相談会	特許相談会	就農相談会
令和5年度	15人（中小企業診断士協会・ 日本政策金融公庫同日開催）	12人	19人	2人
令和6年度	19人（中小企業診断士協会・ 日本政策金融公庫同日開催）	21人（知財ビジネス合同相 談会に変更）		3人

○課題

- ・無料の相談会があることや関連団体を紹介できること、商用データベースの利用等、図書館のビジネス支援機能を広く県民に知ってもらえるような発信を地域メディアやSNSを活用してさらに発信し、引き続き認知度を高める必要がある。
- ・各事業のアンケート結果等から、ビジネス支援サービスを継続的に行ってほしいとの要望がある。市町村立図書館員に図書館におけるビジネス支援の重要性を伝え、専門性を高めるとともに、講座やセミナー、出前図書館等を市町村立図書館と連携して実施しながら運営方法等の情報共有を行い、中西部地域でもビジネス支援サービスを拡大していく必要がある。
- ・ビジネスに関する展示等を継続的に県内図書館や学校図書館等で行い、図書館のビジネス支援機能に係る認識を広め、活動を県内に浸透させていく必要がある。

(別紙)

6 主な事業に関する調べ

事業名		郷土情報発信事業			
施策の実施状況、成果・進捗状況・問題点等					
(単位：千円)					
当初予算額	補正等予算額	予算現額	支出済額	翌年度繰越額	不用額
7,739	(流用) ▲65	7,674	6,396	0	1,278

1 主な事業の実施状況

○特別資料展及び郷土文化講演会の開催

- ・特別資料展「平安時代の物語文学－読み継がれた源氏物語と池田亀鑑－」展
(会期：8月24日～9月29日 来場者数：596名)
- ・郷土文化講演会「平安文学の人物像について－史実に相照らして－」
(11月30日 参加者：82名)

○鳥取県の昔話を聞く会の開催

毎月第4土曜日 (参加者：延べ192名 5月中止)

○『やつれみのの日記』の翻刻作成・公開及び崩し字で書かれた作品を解説するワークショップ

とっとりデジタルコレクション公開の文学等を活用し、崩し字の翻刻の基礎を学ぶ講座を開催。図書館員や一般を対象とした講座であり、鳥取県の文学等に親しむ機会ともなった。
(3月14日 参加者：11名)

○地域資料のデータベースの提供

日本海新聞の記事を検索・閲覧できる環境を整備した。

- ・日本海新聞記事検索サービス及びマイクロフィルム閲覧サービスの提供
- ・日本海新聞のマイクロフィルム化

2 事業の成果（改善状況）・課題等

○成果

項目	内容
特別資料展「平安時代の物語文学」	源氏物語に関する当館所蔵の貴重資料(写本・刊本等)や源氏物語研究の大家である日南町出身の池田亀鑑を取り上げた。当館学芸員によるギャラリートークも開催し、期間中には約600人の来場があり、多くの県民に対し図書館資料や郷土人物について周知する機会となった。
郷土文化講演会「平安文学の人物像について－史実に相照らして」	特別資料展に関連する内容として、平安文学の登場人物を取り上げ、参加者は特別資料展の展示内容についてより一層理解を深めることができた。
『やつれみのの日記』の翻刻作成・公開及び崩し字で書かれた作品を解	古文書等の解説に対する図書館員のスキルアップを図り、テキストを解説した成果は、とっとりデジタル

読するワークショップ	コレクションのコンテンツの翻刻に活用した。
マイクロフィルム化事業	新聞を長期保存するため、平成31年1月～令和5年12月までの日本海新聞のマイクロフィルム化を実施した。
鳥取県を発信する企画展示	鳥取県の歴史・文化・人物等に関するものや社会的な課題を捉えて実施。特に、日本人初の女性弁護士の人である中田正子の展示は、関連資料の貸出や、とっとりデジタルコレクションに掲載中の郷土人物データベースなどへのアクセスが増加した。

○課題

- ・郷土資料の収集・整理、郷土情報の蓄積を行い後世に伝えていくとともに、県民が鳥取県に愛着や誇りを持てるような取組を積極的・魅力的に行っていく必要がある。
- ・これまでに県立図書館が行った展示等を外部でも行ってもらうなど、県内公共図書館・学校図書館、関係機関等と連携し、県内全域に郷土情報の周知と活用を促進していく必要がある。
- ・郷土資料の保存環境の点検を行い、災害等で滅失・破損等しないよう対策を強化するとともに、郷土資料のデジタル化と利活用の推進が必要である。

(別紙)

6 主な事業に関する調べ

事業名		図書館国際交流事業			
施策の実施状況、成果・進捗状況・問題点等					
(単位：千円)					
当初予算額	補正等予算額	予算現額	支出済額	翌年度繰越額	不用額
4,743	(流用) ▲287	4,456	4,405	0	51

1 主な事業の実施状況

○環日本海諸国の図書館図書交換事業

・協定を締結している環日本海諸国の図書館との図書交換は以下のとおり

中国河北省		韓国江原道		ロシア沿海地方		モンゴル	
河北省図書館		春川市立図書館		・ゴリキー図書館 ・沿海州児童図書館		中央県D.ナツァグドルジ記念公共図書館	
送付	受領	送付	受領	送付	受領	送付	受領
116冊	未着	149冊	101冊	—	—	20冊	20冊

※ロシア沿海地方(ゴリキー図書館、児童図書館)については、県がロシアとの交流を凍結しているため、送付を見送っている。

○関係諸国の資料整備

・環日本海交流室・国際交流ライブラリーの閲覧用資料を購入
(図書933冊、雑誌37種、新聞4種)

○国際交流ライブラリー講演会の開催

国際交流ライブラリー開設10周年を記念し、世界で活躍する鳥取県出身者を講師とした講演会を開催。(11月10日 参加者99名)

○多文化を知るイベントの開催

「英語」や「ベトナム」をテーマとしたイベントを開催。

・「英語のえほんを楽しもう♪」(8月18日 参加者72名)

・「図書館で「ベトナム」を楽しもう♪」(2月16日 参加者55名)

○初心者向け英語多読関連講座の開催

当館所蔵の英語図書等を活用し、初心者対象に英語を楽しむ講座を試行的に開催。
(7月6日、20日 参加者：各10名)

○令和6年度鳥取県モンゴル中央県青少年交流事業関連イベントの開催

「図書館でモンゴルの子どもたちといっしょにあそぼう♪」(6月15日 参加者47名)

○国際交流ライブラリー企画展示

・国際交流、講演会に関する企画展示

・鳥取県が交流している国や地域に関する企画展示(県交流推進課と連携)

・ピーナツコレクションに関する展示

2 事業の成果（改善状況）・課題等

○成果

項目	内容
国際交流ライブラリー講演会の開催	主会場のほか市町立図書館等のサテライト会場の設置や、自宅等でのオンライン視聴も可能とし、県民が受講できる機会を増やす工夫を行った。
初心者向け英語多読関連講座の開催	小学校でも英語教育が必修となる中、参加者は当館の所蔵資料を利用した英語の楽しみ方や、英語の本を読むときのポイントなどを学び、各々に合った本の楽しみ方を知ることができた。また、当館所蔵の英語関連図書の周知と国際交流ライブラリー・環日本海交流室の利用促進に繋がった。
多文化を知るイベントの開催	県民の国際理解や環日本海諸国等への関心を深める機会を提供した。特に「英語」は関心が高く、会場内に展示した図書も多く貸出された。
国際交流ライブラリー企画展示	国際交流に関する県政やその時々話題等をテーマに関連図書を紹介し、情報発信を行った。
関係諸国の資料整備	環日本海諸国との交換図書の継続実施や外国語図書の専門書店(東京)での現物選書等により、外国語図書の充実に取り組み、利用者及び市町村立図書館や学校図書館等にも貸出を行った。

○課題

- ・当館の国際交流ライブラリーや環日本海交流室が、多文化理解や県内在住外国人との交流の拠点となるよう、国際理解のための講演会や行事等を開催し、さらなる利用の促進を図るとともに、市町村立図書館や関係課・関係団体と協力し、レファレンスや資料提供、外国語学習等の支援の充実に努める必要がある。
- ・環日本海諸国に係る資料や情報の収集と充実に努め、県内在住外国人の支援及び県民の国際理解を促進していく必要がある。
- ・所蔵する英語資料を活用し、英語への興味関心を高めるための工夫や取組を行う必要がある。
- ・外国語資料の受入や整理業務において滞留しないための体制づくりが課題である。

(別紙)

6 主な事業に関する調べ

事業名		市町村立図書館等協力支援事業			
施策の実施状況、成果・進捗状況・問題点等					
(単位：千円)					
当初予算額	補正等予算額	予算現額	支出済額	翌年度繰越額	不用額
9,924	(流用) ▲718	9,206	8,829	0	377

1 主な事業の実施状況

- ・市町村立図書館等に対し、宅配便によるリクエスト本の配送、一括大量貸出、資料相談を行った。
- ・司書の技術向上を図るための研修事業を実施した。
- ・図書館への来館促進を目的としたキャンペーンを全県で実施した。

＜令和6年度までの市町村立図書館等への貸出冊数＞

支援先	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
市町村	53,352冊	53,884冊	54,317冊	51,576冊
高等学校	26,922冊	23,383冊	20,222冊	16,981冊
特別支援学校	14,659冊	12,862冊	13,749冊	11,906冊
病院図書室	2,160冊	2,185冊	3,536冊	3,992冊
大学・団体・その他	3,088冊	3,336冊	3,136冊	4,375冊
合計	100,181冊	95,650冊	94,960冊	88,830冊

○図書館業務専門講座

- ・高度化・多様化する利用者のニーズに対応するため、図書館職員のスキルアップを目的とした研修を実施した。

テーマ（開催月日）参加人数：

図書館経営(6月7日)参加47名、児童サービス(9月19日)参加47名、障がい者サービス(11月28日)参加53名、本の修繕の基礎講座(3月5日)参加36名

○新任職員のための図書館職員実務研修会(4月21日)参加39名

○県立図書館職員が講師を務めた研修

- ・市町村立図書館職員のスキルアップのため、希望する図書館の研修会に出向き研修を行った。

○図書館へ行こう！キャンペーン(10月1日～12月1日)

秋の読書週間(10月27日～11月9日)にちなみ、鳥取県立図書館と市町村立図書館、大学・高等専門学校図書館、専門図書館が共同で「図書館へ行こう！キャンペーン」を実施した。各図書館で体験メニューを設定し、体験数に応じて賞品をプレゼントした。(クリアファイル：3,551枚、マグネットシート：2,181枚、トートバック：1,860件の応募に対して500枚をプレゼントした)

○各種委員を務めた事例

委員の名称・委員名	任期
境港市図書館協議会委員	令和5年10月1日～令和7年9月30日
岩美町立図書館協議会委員	令和6年4月1日～令和8年3月31日
八頭町子どもの読書活動推進計画第3次計画策定委員	令和6年8月1日～令和7年3月31日
わかさ生涯学習館運営委員会委員	令和5年4月1日～令和7年3月31日
琴浦町図書館協議会委員	令和6年7月1日～令和7年3月31日
琴浦町子どもの読書活動推進計画策定委員	令和5年6月1日～令和6年5月31日
江府町図書館協議会委員	令和5年4月1日～令和7年3月31日

2 事業の成果（改善状況）・課題等

○令和6年度の事業実施に当たり改善等に取り組んだ点

- ・市町村立図書館(含:学校図書館との合同研修)を対象とした研修会への講師派遣を行い、研修テーマの担当部署の職員が講師を務めた。各館職員のみならず、当館職員のスキルアップにもつながった。

○成果及び効果

- ・研修について、市町村立図書館の要望等により、ハイブリッド開催を継続したため、遠隔地の図書館からの参加、1館からの複数参加が増加した。
- ・図書館業務専門講座では図書館経営、障がい者サービス、児童サービス、市町村立図書館でのニーズの高いテーマを取り上げたため、令和5年度と比べ、参加人数が増加した。公共図書館の課題意識や情報の共有を図ることができた。

	第1回	第2回	第3回	第4回	合計
令和5年度	25名	28名	37名	26名	116名
令和6年度	47名	47名	53名	36名	183名

- ・「図書館へ行こう！キャンペーン」を県立図書館と県内全市町村立図書館に加え、本年度は大学・高等専門学校図書館や専門図書館にも参加を呼びかけ実施した。館種を越えた図書館間の新たな動きを生み出すことができた。

○課題

- ・研修のハイブリッド開催により、移動時間に係る受講者の負担が軽減された。しかし、直接顔を合わせる機会の減少の要因ともなっており、県内図書館職員間のつながりが弱くなっている。
- ・市町村立図書館との連携構築を推進するためには、各館への訪問回数を増やし、更なるコミュニケーション、現場のニーズを把握することが必要である。
- ・図書館が知の情報拠点としてこれまで以上に活用されるよう、図書館のサービスや機能を広く県民に知ってもらうための市町村立図書館と協力した一層の取組が必要である。
- ・社会の急激な変化に伴い、県内公共図書館における電子図書館に係る研究や業務のDX化に対する検討が必要である。

(別紙)

6 主な事業に関する調べ

事業名		生きる力を育むとっとり学校図書館活用教育普及事業			
施策の実施状況、成果・進捗状況・問題点等					
(単位：千円)					
当初予算額	補正等予算額	予算現額	支出済額	翌年度繰越額	不用額
717	(流用) ▲93	624	540	0	84

1 主な事業の実施状況

○学校図書館活用教育普及講座

- ・「GIGAスクール時代の今こそ、学校図書館の活用を」をテーマに、東中西部の3会場（8月5・6日・8日）で開催。143名参加。

○学校司書のためのICTスキルアップ研修

- ・Basic講座（5月22～24日）57名参加 Figjam講座（5月22～24日）43名参加。

○学校図書館司書研修会

- ・「デジタルアーカイブの活用と学校図書館」をテーマに、11月15日に開催。40名参加。

○学校図書館司書実務研修会

- ・第1回(10月8日)、24名参加 第2回(12月13日)15名参加。

○学校図書館支援員の研修会派遣

- ・大山町立図書館、倉吉市立図書館、東部小学校教育研究会図書館部会等 延べ9回

○県教育センターとの連携

- ・司書教諭研修で学校図書館支援員が講師を務めたり、学校図書館に関する専門研修の講師選定に関わったりした。

○高校生の読書推進事業

- ・「高校生にすすめたい本リスト2024」作成
高校、特別支援学校の学校図書館職員による高校生へのおすすめ本30冊を掲載したリストを作成し、電子データとして県内の高校・特別支援学校へ送付した。あわせて県内市町村立図書館や大学図書館等にも紙のリストを提供した。
- ・「すぐできる！情報検索ガイド-情報検索のためのリンク集-」、「デジタルパスファインダー」作成
学校図書館を活用した情報活用能力の育成を目的に県立高校司書を中心に作成した。データ化し、生徒各自の端末での利用が可能となっている。

○全国高等学校ビブリオバトル2024鳥取県大会

- 12月8日（日）に倉吉体育文化会館で開催。8校11名が参加。

○授業活用選定用見本図書の貸出

- ・学校や各市町村立図書館に紹介。合計7セットを貸出した。
- ・全点購入の新刊児童図書(選定用)の利用が多かった。（2,565冊）

2 事業の成果（改善状況）・課題等

○成果

項目	内容
教育現場を意識した研修テーマ設定	図書館のDX化やICT活用など、教育の最新動向を反映した内容で研修を企画。学校現場との連動性が高まった。
多様な参加形態への対応	研修を会場・リモートのハイブリッド形式で実施し、さらに東・中・西部各地域で同内容を開催。より多くの関係者の参加を可能にした。
図書館活用に関する方針・資料の継続的周知	「活用ビジョン」「情報活用能力系統表」「年間活用計画」などの資料を、研修や訪問相談の場を活用して定期的に紹介し、浸透を図った。
教科書改訂にあわせた資料整備	令和7年度の中学校教科書改訂に向けて、「年間計画作成のための資料」をアップデート。現場の変化に対応した情報提供を行った。
現場支援の継続	各学校への訪問相談や、市町村での研修講師派遣を継続。現場に寄り添った支援体制を維持した。
ICT活用実践の広がり	学校図書館でのICTを活用した授業や探究活動など、実践的な取り組みが見られるようになった。
公共図書館との連携強化	公共図書館職員と学校図書館担当者が合同で研修を実施する機会が増え、館種間の連携が具体的に進んだ。

○課題

項目	内容
ICT活用の推進	GIGAスクール構想により1人1台端末が整備された環境を活かし、学校図書館でもICTを効果的に取り入れた教育活動の展開が求められている。
DX対応の強化	学校図書館のDX化を見据え、電子黒板、児童生徒の端末と接続可能なプリンターの設置など、環境面での整備も必要である。
探究学習への積極的関与	探究的な学習における学校図書館の役割を明確にし、学校図書館担当者だけでなく、全教職員の意識を高める研修や情報提供が必要。
組織的な図書館運営の構築	学校図書館を学校全体でどう運営するかという視点を持ち、各教育局・教育センター・市町村教育委員会との連携をより密にしていく必要がある。
多様なニーズに応える読書環境	特別な配慮を必要とする児童生徒に対応するため、多様な資料の整備や支援サービスの工夫など、誰もが利用しやすい読書環境づくりが求められている。

(別紙)

6 主な事業に関する調べ

事業名		図書館運営費(資料購入整理費)			
施策の実施状況、成果・進捗状況・問題点等					
(単位：千円)					
当初予算額	補正等予算額	予算現額	支出済額	翌年度繰越額	不用額
99,598	(流用) ▲24	99,574	99,572	0	2

1 主な事業の実施状況

○図書及び逐次刊行物の整備充実

・県民の専門的な要求にも応えられるよう資料の充実を図り、逐次刊行物については広範な分野で最新の情報が提供できるよう充実に努めた。

<資料の整備状況>

(単位：冊)

区 分		令和5年度末 冊数	購入等 (寄贈含む)	除 籍	計	令和6年度末 冊数
蔵書合計		1,273,798	27,056	△958	26,098	1,299,896
内 訳	一 般	876,252	18,152	△410	17,742	893,994
	郷 土	156,685	2,848	△1	2,847	159,532
	児 童	131,330	3,615	△156	3,459	134,789
	協 力	86,165	2,161	△387	1,774	87,939
	その他	23,366	280	△4	276	23,642

2 事業の成果（改善状況）・課題等

○令和6年度の事業実施に当たり改善等に取り組んだ点

・電子書籍の選書・発注・納入が円滑に進むよう書店とフローや役割の確認を行った。

・県政・地域の課題への対応や県民の豊かな暮らしをサポートするため、ビジネス支援や医療・健康情報サービスなどの課題解決型サービス実施のための資料の充実を図った。

・人の成長・学びを支えるための子どもの読書推進、学校図書館支援、生涯学習を支援するための資料の充実を図った。

○成果及び効果

・電子書籍サービスにより、遠隔地居住者の利便性の向上や図書館利用に困難のある方などの読書バリアフリー環境の充実を図った。

・市町村立図書館では持つことの困難な専門書・技術書など多様な内容の資料を収集することにより、県民が必要とする資料の提供を行った。

・探究学習や総合的な学習などに活用できる資料の貸出により、学校図書館支援を行った。

○課題

・電子書籍サービスの一層の周知を図り、利用の拡大に努める必要がある。

・多様化、高度化する県民の要求に応えるために、専門家の助言を参考にしながら最新の資料を幅広く収集する必要がある。

- ・郷土資料については、出版情報を逐次確認しながら、網羅的な収集に努める必要がある。
- ・蔵書数の増加により書庫の空き容量が減少している。今後の資料増加に対応するため、不要資料の除籍を計画的に進め、空き容量を確保していく必要がある。